

2 目標達成計画

事業所名： 福光園グループホームフクちゃんハウス
作成日： 令和2年9月4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合ったものです。また、課題等は、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を掲げております。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人理念のもと、事業所としての独自の基本理念を掲げ、その中でその理念の意味となる事も掲げている。誰もがその理念を見る事で、ここでの生活をどう過ごしていくかという事理解から生活支援に至るまでの目標としている。	利用者様がどう生活して行きたいか。生活がどのように変化していくかという事から、個々の特性を掴む事が必要である。今を大切に支援する事で、内的分析を行いながら思いに近づけていく支援と、そこから見えてくる気づきの大切さ、視点の置き方を確認する事。	職員個々が、その理念に向かう意識を常に養いながら仕事に繋げていくという事で、利用者様の生活をどうサポートするかという事が理解される事によって、1日の生活スタイルに変化をもたらす事にも繋がる。	6 か月
2	5	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、年間スケジュールを立て、委員会でのどのような伝え方が必要か、どのような対応が拘束になるのかという事の認識を共有し、もし必要となった際の手順等を確認していく。	その人にとって大切な事、拘束する事での弊害が沢山ある為、そこまで行かない為にも何をすればいいか等の考えを優先させながら、その人らしさを大切にしていける事。その裏側に隠れている事が、その人にとっての本当の気持ちとなっている事を忘れない事。	職員会議を利用して、身体拘束の研修会を年4回実施している。又、年2回は運営推進会議の中で、地域の方々にも同じ問題をどう考えていくかという事や、ホームとしてどういう問題点があるのかという事も伝えながら情報共有を図っていく。	6 か月
3	16	当ホームは、出来る限りオムツは使用せず生活して頂く支援を提供している。在宅生活時オムツを使用している、本人の排泄パターンを読みこめばトイレでの排泄は可能となる事から、本人の出来る機能を維持させる事に重点を置く。	個々の能力に違いはあるが、必要な事、出来る事は行って頂く事で、身体不調の訴えや表情変化、視野が広がったりと様々な方向性から見えてくる事があり、気持ちの安定にも繋がる。継続する事、時には失敗する事もあるが、出来る喜びが大切としている事から、不快、不安等の解消にも繋げていく。	自分から訴えがない人でも、声掛けにて確認をし、促したり対応する。立位動作が出来ればトイレでの排泄は可能であり、その場の理解が排泄をコントロールしている為、少しでも機能活用を大切に支援していく。	6 か月
4					か月
5					か月